

千葉県子ども病院における成人移行期支援の取り組み

堂前 有香¹、岩井 潤²、山岸 聡子¹

¹千葉県子ども病院 看護局

²千葉県子ども病院 スキルフルドクター

近年、小児期発症の慢性疾患患児の成人患者が増加しており、成人移行期支援が重要視されている。当院でも、ワーキングでの準備期間を経て、2018年から成人移行期支援運営委員会が中心となり、組織的に支援を開始した。そして発達段階に応じたヘルスリテラシー形成の支援と、トランジション外来を中心に取り組み始めている。

ヘルスリテラシーの形成については、15歳以上の外来患者を対象に、病名や服薬についての理解を問うスクリーニングシートを配布している。本人が記入後回収し、担当看護師が病名や服薬理由の理解などのヘルスリテラシーの状況を確認する。更に、診療録からセルフケアの状況や親子関係、社会生活の情報や、複数科を受診している場合は各診療科の成人科への転院予定など、支援に関わる情報を収集する。これを元に主治医や外来看護師とカンファレンスを行い、各患者について今後の具体的な支援内容や方法を考える機会を設定している。実際には、スクリーニング開始後3か月で110件の回答があった。その中には、主治医から説明を聞いていても病名がわからない、また長期間服薬をしてもその理由を知らないケースがあり、その結果を主治医や外来看護師にフィードバックして、再度説明を行うケースがあった。また、このシート記載をきっかけに、親から子どもへ病気について説明をしたり、家庭で患者が主体となって服薬管理ができるようになったケースもあった。

トランジション外来については、2018年8月から施行し、これまでに7件の外来受診があった。担当看護師が患者本人と面談を行い、病気の理解や体調管理の方法、進路や成人科への転院などについて把握している。

上記支援にあたり、患者が疾患や治療、日常生活の注意点などを自分で記載して保管できる「マイ・パスポート」、トランジション外来だけでなく入院中や外来受診の場面でも、患者のヘルスリテラシーや今後の希望を面談で把握するための「面談シート」、子どもや家族の発達段階に合わせた病気の説明や支援内容を明記した「成人移行期支援プログラム」を考案し活用している。

最後に、移行期支援体制の整備については、小児専門病院の特性として産婦人科を含めた成人医療体制がなく、患者の転院先情報も乏しいことが課題である。近く都道府県に設置される成人移行期支援センターとの密な連携を構築しながら、成人医療施設や行政とも連携を図っていきたい。